



ポジティブシンキング チームワーク
Positive thinking ～「協力で青小を熱く」～

校長 藤原 明美

Positive thinking「ポジティブシンキング」とは、物事を前向きに捉え、解決していく思考のことです。

大学生対象のある就職セミナー講師の話です。講演に参加した学生にアンケートをとると、大きく3つに分かれるそうです。「会場が暑い」など、不満やクレームを書くネガティブグループ。「参加してよかった」「参考になった」という、感謝の気持ちを書くポジティブグループ。そしてその中間グループ。その後の内定状況を追跡調査すると、何度サンプリングをやり直しても、ポジティブな人材を求める傾向となり、その結果からこの講師は「どんな時代でもポジティブな思考が大事」と話していました。

10月15日(土)に、全校で運動会を開催することができました。感染拡大防止の市のガイドラインをもとにすると、全児童数に対する校庭の面積が狭い青葉台小では「全校で行う運動会」を実現するためには様々な工夫が必要です。今年度は「協力で青小を熱く」をめあてに、6年生が中心となって様々な実行委員を組織し、運動会開催に向けた準備や運営を主体的に考え、工夫して取り組みました。「大きな声を出さなくても応援の気持ちを表現するためにはどうしたらいいか。」「準備体操・整理体操も工夫してやりたい。」・・・

初めての経験で、取り組み始めたころは様々な課題がありました。運動会当日まで、全校が一堂に会して集まる機会がない中で、全体練習を一度も開催せずに、自分たちの思いや願いを、全校の子どもたちに伝えていくことは容易ではありません。

運動会直前は雨の日が続きました。計画通りに進まない時でも、子どもたちはネガティブな言葉を口にするのではなく「ビデオを作って各クラスでいつも流してもらおう」「声を出さずに盛り上げるためには、体が動くウキウキ楽しい応援ダンスを作ってみよう」「学年の見どころを放送して楽しみにしてもらおうといいかな」などと、様々な解決策を考えました。課題が出てその都度「それならこう工夫すればいい」という主体的で前向きな案を次々と編み出し、豊かな発想で進めていきました。妥協する、諦めるという選択ではなく、自分たちの課題を、常にポジティブに創造し、乗り切れる子どもたち。私たち教師の心配は、杞憂でした。

一つのことを創り上げるまでには、たくさんの困難、課題がありますが、課題解決の過程にあった「ポジティブシンキング」と、あの当日「成し遂げた」という満足感でいっぱい最高の笑顔が、彼らの未来をよりよいものにしていくだろうと実感しました。

人生にも同じことが言えます。生きていく中で、生活していく過程で、時に、困難な状況や課題に直面することがあるでしょう。そんな時に、前向きな心持ちで、ポジティブに考えていくことが、自分の心を明るくし、より豊かな生き方に繋がると考えます。

ある10月の朝、黒メダカの池の前で、あさがおの芽を見つけました。インターロッキングの溝の隙間にある、ほんの少しの目地砂に、種が落ちて芽を出していました。とっても過酷な環境なのに、しっかりと根を張り、凛と誇らしげに伸びた芽に、象徴的なものを感じました。こんなところに芽を出したことを嘆くより大切なこと。精一杯今を生きようとする生命力の強さ。その芽と一緒に見つけた1年生からも「かわいそう」ではなく「こんなところでも芽を出してすごい!」「がんばれ!」という声が聞かれました。



「ポジティブシンキング」を大切に、これからも笑顔いっぱい前向きな青葉台小学校にしていきたいと思えます。運動会の開催に向け、ご声援をいただきました皆様に感謝いたしますとともに、今後ともご支援ご協力をお願いいたします。